新たな福岡市立障がい者スポーツセンター整備基本構想有識者会議
第２回会議議事要旨

■日時：令和８年８月６日（木曜日）16 時 30 分から 18 時 20 分まで
■場所：福岡市健康づくりサポートセンター 視聴覚室A
■出席者：小手川委員長、高木副委員長、今泉委員、浦田委員、小淵委員、佐田委員、下山委員、
松本委員、見野委員
■意見要旨：
【基本理念・コンセプト】
- 基本コンセプトの「④ネットワーク拠点」は、「様々な団体や人」に加えて「施設」も入れると、よりネットワークの広がりが見えるのではないか。
- 基本コンセプトは、資料に記載の4項目でよい。項目を増やすよりも、あとは、各論で落とし込んでいく形がよい。

【必要機能の整理】
●全般
- 新たな障がい者スポーツセンターの設置をきっかけに、障がい児者がいつでもどこでもスポーツに接することができる体制を構築することが必要。スポーツ庁の「障害者スポーツ振興ワーキンググループ」では、「障害者スポーツセンター」に求められる機能として、ネットワーク機能、人材育成・関係者支援機能、情報拠点機能、指導・相談機能が挙げられている。これらを「確実に押さえておくべき機能」として検討するとよい。

●ネットワーク、身近な場所でのスポーツ
- 障がい者スポーツセンターだけで全障がい者を受け入れることは難しい。新センターがハブになり、体育館や公民館がサテライトになっていくのはよい。各施設でも、障がい者が来館し、対応することで理解が進んでいく。別途委託により、そのようなネットワーク事務局を担うコーディネーターを置く方法もある。
- 各区にある障がい者フレンドホームをネットワークに取り込み、有効活用することで、スポーツを楽しめる機会を増やせるのではないか。
- 障がいのある人が身近な場所でスポーツができる環境を広げる必要がある。そのためには障がい理解の促進と、活動を支える人材や体制が必要である。
  －知的障がい者は1人で遠くまで行くのが大変であり、近くで参加できるとよいが、実際は公民館の催しにさえ参加できていない。ソフト面の対応や障がい理解が必要であり、丁寧に進めていく必要がある。
  －地域の体育館には支える人もおらず、障がいのある人が入っていける状況でない。体育館・各市民プール等と連携が取れるようになり、「すぐ近くに施設があるのに受け入れができない」といった状況がなくなっていくとよい。
  －各施設に障がい者をサポートする人材を置くのは難しい。1人の人材が複数の施設を横断的にカバーするような仕組みを考えられるとよいのでは。AI 等も活用し、その日の利用状況に応じて人材を配置する仕組み等も検討してはどうか。
- ハード面だけでなく、ソフト面も必要。サポートできる体制づくり、人材が必要。
- 障がい者スポーツセンターを連携体制の中心とし、障がい者スポーツ協会やパラスポーツ指導者協議会等がつながって関わることが必要である。

－市障がい者スポーツ協会は新センターの中にあるとよい。
－現在は、市障がい者スポーツ協会は市民福祉プラザ、指導者団体は障がい者スポーツセンター等で活動している。利用者のためにも新センターに集約するとよい。

- 新センターが、繋がること、ネットワークのハブになっていけるとよい。

●オンラインを活用したスポーツ参加

- スポーツは、その場に行って一緒に体を動かすことをイメージしがちだが、eスポーツやオンラインで自宅でも行えるようなイメージもあってよい。
- 各部屋にオンラインの設備があるとよい。外出が難しい人もあり、その人の状況に応じて参加方法を選択できる。そこに来ることはできなくても、繋がることができる。
- オンラインで事前にイメージできれば、初めての場所は緊張する人でも、最初の一歩が踏み出しやすい。また、もし、オンラインでの参加が公民館からもできるといった状況になれば、「行ってみようかな」という方も出て来る可能性がある。

●情報保障・情報発信

- 重度の知的障がいがあり、言葉で伝えることが難しい人も、スポーツや施設の取組みに参加しやすいよう、見れば分かる仕組みを検討するとよい。
- 予約については、視覚障がいのある人等が電話で確認しながら利用できる方法を残す一方、AI やインターネットで完結できる方法も用意し、利用者のニーズに応じて選べるハイブリッド型とすることが望ましい。また、聴覚障がいのある人が電話を使わず予約できる方法や、受付における手話対応等も考える必要がある。
- 体験会等を見ると、密に繋がっている人には繋がっているが、そうでない人には繋がっていない。口コミではなく、情報を広げていける仕組み・ネットワークが必要。情報が必要な人に届き、参加に繋がる発信方法を検討する必要がある。新しい施設には、マーケティングができる人材を確保する方がよい。若い方ならショート動画の活用も有効と思われる。

【諸室について】

- アリーナにはテニスのラインを設け、車いすテニスに限らず、家族で気軽にテニスを楽しめるようにするとよい。
- スポーツは続けることに意味がある。ウォーキングやランニングは、簡単で金銭的な負担も少なく、身近な場所で行える。こうした競技についての情報提供なども行っていけるとよい。
- 現施設の小体育室は天井が低く、広さも限られるため、バドミントン等には利用できず、利用できる活動が限られている。新施設では、より広く、天井を高くするなど、多様な活用ができるつくりにするとよい。
- ゴールボールは音を使うため、一つの会場では一つの試合しかできず、国内大会等では2面以上ある施設が会場となっている。
- アリーナに加え、小体育室をバレーボールができる程度の広さに拡大し、サブコートとして利用できると、合宿や国内大会で利用しやすい。
- 小会議室は、球技やヨガなどにも使用できる。
- 多目的更衣室は、現在は1室だが、親子での利用や介助を伴う更衣などを想定すると、増やす方がよい。
- ダンスは、踊るジャンルが変わっても子どもから高齢者まで楽しめる。継続して取り組めるよう、照明、鏡、音響等を備えたダンスルームがあるとよい。